

濱松争議に就いての決議

濱松 争議

浜松に於ける、日本染織会社の百〇五日に亘る、ストライキは、争議團員の結束の強さと、官憲と資本家との召使である、暴力團との共同戦線による圧迫、迫害の猛烈さと、小作人による罷工團の應援と、長期間のストライキとに於て、確かに最近に於ける代表的の激烈な階級闘争であつた。汝々は冷静に公正に此の争議を直視することが必要である。此の争議の原因は労働者の劣悪な労働条件に対する、改善の要求が、資本家によつて拒絶されたにある。此の故に此の争議は、始めは普通の労働力賃金の紛争であつた。然るに労働者の要求が、甚だ安当であつたに拘らず、資本家は全力を拵けて労働者に対抗し、会社は四十万円の損害、警察は五万円の臨時増額を以つて之に當つた。之は一体何を物語るのであらうか？ 之は労働者の僅少な労働条件の改善に對しても、現在の資本家は一歩も譲歩しないことを実証し、官憲は民衆の祖税を労働者圧迫に費消して、資本家を擁護するものである事を実証したのである。亦此の争議は、労働者の敗北に終つた。然しこの敗北は資本家、官憲、暴力團の共同戦線の力が強かつた爲めである。

は、争議團以外に、熱心な薄弱であり、大多数の短絡労働者及び、膨大な組織労働者の階級意識が貧弱であつた、ことが大なる敗北の原因である。更に部分的には評議会の争議基金が僅少であつたこと、官憲が争議指導者の大衆的逮捕を行つたこと、資本家が一部の労働者を好餌を以て誘惑したこと等も大いに作用してゐる。

即ち

一、日本に於て最初の最も組織的に訓練された、労働者の大衆的力を以て階級的に結成された資本家と資敵に抗争し、全資本家階級を以て、敵愾せしむ一方全無産階級に對し、一大センセーションを興へた事である。

二、争議應援に全國的動員を以て、評議会の全國の闘士が乗り、争議の發展に伴ひ、逐有闘争と政治闘争との関係及び、争議團の組織並に、階級に關する問題が、討議された爲め、最も新らしい具體的方針が樹立され、且つ、それから全國的に統一され一般化された。

三、特に吾々水産部として争議團を積極的の意投したことである。

四、其の他を以て争議團を積極的の意投したことである。

何故なら、小作農民が労働者のストライキを物質的、精神的に應